

## キリストのからだとしての召会のビジョン、実行、建造

(金曜日——午前の第二の部)

メッセージ 5

### 召会生活の実行における極めて重要な経験 (2)

キリストのからだ、すなわち一人の新しい人の中にある生活としての召会生活の各面

聖書：エペソ 4:12-14, 16, 18, 20-21, 24, 27, 29-30, 32

- I. もしわたしたちがキリストのからだ、すなわち一人の新しい人の中にある生活としての召会生活を実行しようとするなら、神聖な三一の神聖な分与を経験する必要があります——エペソ 4:12, 16, 18, 21, 24, 30：
- A. 神聖な三一の神聖な分与は、信者たちとしての、キリストのからだの肢体としての、新しい人の各部分としてのわたしたちの日常生活の基礎です——Ⅱコリント 13:14。
- B. 神の命は、神の神聖な分与の中で彼の豊富をもって彼の子供たちを供給するためにあります——エペソ 4:18。
- C. イエスにあるあの実際は、神の命を実行すること、すなわちイエスが地上に生きている間、イエスにあって現された神の命を実行することです——21 節：
1. これは、神聖な命が実際化され、実行されて、イエスの人性にある実際となることです。
  2. イエスにあるあの実際は、彼の人性にあるキリストの敬虔な生活を信者たちに注入するためです。
- D. エペソ第4章30節は、「神の聖霊……この方の中で、あなたがたは証印を押されて、贖いの日へと至る」ことについて語っています：
1. この霊は、証印を押す霊であり、証印の「インク」でさえあって、わたしたちはみなそれによって押されました——1:13。
  2. 証印を押す霊の内容、要素、本質は、神聖な命がイエスの実際の人性に加えられたものです——4:18. 使徒 16:7。
  3. 証印を押す霊は、手順を経て究極的に完成された三一の神をもってわたしたちに浸透し、浸潤し、飽和します——Ⅱコリント 13:14。
- E. 御父の命はイエスにある実際であり、この実際は御父の命の実行として、証印を押す霊となっています——エペソ 4:1, 21, 30：
1. 証印を押す霊は、イエスの日常生活の実行の中にある神聖な命をもってわたしたちに浸透し、浸潤し、飽和して、わたしたちの生活をイエスの生活の複製とします。
  2. 神聖な三一の神聖な分与は、御父の命、イエスにあるあの実際、その霊の証印を押すことを伴っており、この分与を通して、わたしたちは一種の日常生活を持ちます。それはキリストのからだ、すなわち新しい人の中にある生活です——12, 16, 24 節。
- II. キリストのからだ、すなわち一人の新しい人の中にある生活としての召会生活のために、わたしたちはその信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達する必要

があります——エペソ 4:13 :

A. エペソ第 4 章 3 節のその霊の一は、実際における神聖な命の一ですが、13 節の一は、実行におけるわたしたちの生活の一です :

1. 実際の一は、実行されて、それによって実行における一となる必要があります——3, 13 節。
2. 13 節の「到達し」という言葉は、わたしたちが実行におけるわたしたちの生活の一に到達するのに必要とする過程があることを示しています。実際の一は開始であり、実行における一は目的地です。

B. 実行における一は、その信仰の一です——13 節 :

1. 13 節の「その信仰」は、わたしたちの信じる行為ではなく、わたしたちの信じる事柄、例えば、キリストの神聖なパーソンや、わたしたちの救いのために完成された彼の贖いの働きなどを指しています——I テモテ 1:19. 6:10, 12, 21. ユダ 3 節。
2. 召会生活において、わたしたちはただ一つの特別なものを持っています。それは、その信仰です。信者たちを受け入れるために、その信仰以外のいかなるものをも主張することは分裂的であることです——ローマ 14:1. 15:7。

C. 実行における一はまた、神の御子を知る全き知識の一です——エペソ 4:13 :

1. 神の御子を知る全き知識は、わたしたちの経験のために神の御子に関する啓示を把握することです——マタイ 16:16。
2. その信仰の一は、神の御子を知る全き知識に完全にかかっています。わたしたちはキリストを中心とし、彼に焦点を合わせるときはじめて、その信仰の一に到達することができます。なぜなら、神の御子の中でのみ、わたしたちの信仰は一となることができるからです——ヨハネ 20:31. ガラテヤ 1:15-16. 2:20. 4:4, 6. I コリント 2:2。

III. キリストのからだ、すなわち一人の新しい人の中にある生活としての召会生活を保護するために、わたしたちは目的をもった教えの風の内在的な要因を識別しなければなりません——エペソ 4:14 :

A. 教えの風は、邪悪な者の悪魔的な吹くことであり、それは召会の中に嵐をもたらします——マタイ 13:19。

B. 信者たちをキリストと召会からそらすどんな教えも、たとえそれが聖書的なものであるとしても、信者たちを神の中心的な定められた御旨から吹き去る風です——I テモテ 1:3-4. エペソ 3:9-11, 17, 21. 5:32。

C. 教えの風の内在的な要因は、人の悪巧み、人の欺きのこうかつな方法、誤りの体系をもくろむ人のこうかつさです。すなわち、誤りのサタンの体系の中へと人々をそそのかす人のたくらんだだましごとです。誤りの体系は敵サタンのものです——4:14。

D. 教えの風の目的、すなわちサタンの邪悪な目的は、神のエコノミーに相對し、それはある信者たちの信仰を覆すこと (II テモテ 2:18)、召会を荒らし回ること (使徒 8:3)、キリストの有機的なからだの建造を妨げ、崩壊させること、また愛と親切の中でからだの唯一の一を守るのではなく、からだの肢体を分裂させることです (I

コリント 1:10-11)。

**IV. キリストのからだ、すなわち一人の新しい人の中にある生活としての召会生活において、わたしたちはみな、キリストを学ぶ必要があります——エペソ 4:20 :**

A. キリストを学ぶとは、キリストの死の鋳型の中へと鋳込まれること、すなわち、神の長子であるキリストのかたちと同形化されることです——ローマ 8:29 :

1. キリストはわたしたちにとって命であるだけでなく、また模範でもあります——ヨハネ 13:15. I ペテロ 2:21。

2. 彼は彼の生涯において、四福音書に啓示されているように、一つの模範を設立しました。次に彼は十字架につけられ復活して、命を与える霊と成りました。それは彼がわたしたちの中へと入って、わたしたちの命となるためでした——I コリント 2:2. 15:45 後半. ローマ 8:10. コロサイ 3:4。

3. わたしたちはキリストの模範にしたがって彼から学びます。それはわたしたちの天然の命によってではなく、復活におけるわたしたちの命としての彼によってです——ヨハネ 11:25. I ヨハネ 5:11-12。

B. わたしたちがキリストを学ぶことにおける基本的な要素は、実際と恵みです——ヨハネ 1:14. エペソ 4:21, 24, 29 :

1. 実際とは、真理、原則、鋳型、標準です。わたしたちはバプテスマを通して、主イエスの生活によって設立された鋳型、標準、原則の中へと入れられました。これがエペソ第4章の実際です。

2. キリストのからだの肢体として、わたしたちはイエスにあるあの実際にしたがってキリストを学んでいます——20-21 節。

3. わたしたちはそのような標準を生かし出すために、わたしたちの享受また供給としての恵み、すなわちキリストを必要とします——29 節。

C. 積極的な面で、キリストを学ぶことの基本的な要因は、神の命と神の霊です。消極的な面で、その基本的な要因は悪魔です。彼は常に機会をねらって、わたしたちより有利な立場を得て、わたしたちを駄目にしようとしています——18, 27, 30 節。

**V. キリストのからだ、すなわち一人の新しい人の中にある生活としての召会生活を維持するために、わたしたちは互いに親切で情け深くあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったように、赦し合うべきです。わたしたちはその霊の中で、また神聖な命によって、神が赦すように赦すことができます——エペソ 4:32。**